

ドラマティック日本史第5弾

日本の始まりを探る！ 銅剣銅鐸のミステリー

講師：林 和清 先生

日時：6月1日（月）

銅剣

青銅で作られた古代の剣

弥生時代、武器ではなく権威の象徴や神への祈り（祭祀）として用いられる

九州地方、中国・四国地方に多く出土。朝鮮半島での出土例は無い事から中国から直接日本海ルートで流入した可能性

上御殿遺跡（かみごてんいせき）

滋賀県高島市

縄文時代中期（BC2000年頃） 弥生時代、古墳時代

上御殿遺跡出土短剣鑄型



古代ハス

荒神谷遺跡

島根県出雲市

昭和58年発見

銅剣 358本 弥生時代中期後半出雲で制作か？

銅鐸 6個

銅矛 16本



西出雲に弥生中期頃、大きな政治勢力が存在していたか？



ヤマタノオロチ伝説



度々氾濫を繰り返し人々を困らせた斐伊川とその支流をヤマタノオロチに例えた。
その治水事業をオロチ退治と考える
オロチ退治をしてオロチの尻尾からでてきた剣が（**天叢雲剣**（あめのむらくものつるぎ）
別名（草薙剣くさなぎのつるぎ）現在は三種の神器の一つとして名古屋の熱田神宮に
祀られている、
奥出雲地方はたたら製鉄が盛んであったので、真っ赤に熱した鉄が流れる様子をオロチに
見立てた。

釜石（かまいし）



島根県雲南市木次町



須佐之男命がヤマタノオロチ退治の時使用した
「八塩折の酒」を作らせた釜跡とされる「釜石」

銅鐸

弥生時代に製造された釣鐘型の青銅器
紀元前2世紀から400年間に渡って製作
青銅器の楽器 **農耕祭祀用の道具**



加茂岩倉遺跡

銅鐸39個発見
銅鐸の13個に「X」印

（記事：広報担当 藤本 真理子）